

## 砂を足す必要のないバンカー

松山久秋

鎌ヶ谷カントリークラブではバンカーに砂を入れるのに、年間では結構な費用が掛かるそうです。しかし、バンカーに砂を入れる必要がないゴルフ場がありました。今年の夏に行ったメルボルンの南のモーニントン半島にあるリンクスコースがそうでした。ゴルフ場が砂丘の上に行っているため、地面を何メートル掘り下げて砂ばかり。よって、砂を入れる必要がないのです。スコットランドの羊飼いが棒で石の球を転がし、穴に入れて遊んだのがゴルフの起源だという説があります。そこでは、当然ながら、バンカーは人工的に作られたものでは無かったでしょう。メルボルンのリンクスコースでプレイして、元々のバンカーは、上草に覆われた砂丘の一部が崩れて、下の砂地が露出したものに違いないと思いました。

ゴルフ旅行の行先にメルボルンを選んだのは、ゴルフ好きの友人の勧めがあったからです。この友人は何度かメルボルンでプレイしたことがあって、有益なアドバイスをくれました。浦安在住の鎌ヶ谷 CC のメンバー、増本有信さん、杉山由高さん、谷崎敦彦さんをお誘いしたところ、二つ返事で OK、男 4 人の珍道中となりました。行ったのは 8 月末から 9 月初めにかけてで、オーストラリアでは冬から春に季節が変わる頃。雨が多いと聞いていたので心配しましたが、天気が悪かったのは 1 日だけで、その日以外は最低 8℃、最高 15℃ほどで寒くはありませんでした。ただ、晴れていても、南極から次々と薄い雲がやって来るので、短い時間のシャワーがありました。

海外のゴルフ場ではラフは草を伸ばし放題の所が多いですが、メルボルンのゴルフ場も例外

ではありません。写真は初日にプレイした The Dunes Golf Links。その名の通り、Dunes(砂丘)のうねりのままに作られたコースでした。手前に見えるラフに入れたら、ロストになる可能性が大です。



写真のバンカーは整備されたバンカーですが、全くの荒地（ウェイストランド）の中に、自然に出来た砂場があって、砂を均すレイキも置いてありません。そこはソールしてもよいラフなのか、それともバンカーなのか、どちらなのでしょう？

グリーンにボールが一旦オンしても、そこから転がり始めて、3-40メートルも斜面を転がり落ちるコースもありました。グリーンの手間側1-2メートル程は登りの傾斜があって、そこに乗せてもオンにはならないのです。全英オープン等のテレビでは見たことがありますが、経験するのは初めてだったので驚きました。また、フェアウェーに打ったティショットのボールが、距離が足りないと何十メートルも戻って来ってしまうコースもありました。丁度、鎌ヶ谷 CC の西 4 番でカート道に乗ったボールが戻って来るように。フェアウェーが砂地で固く、冬場は芝が短いので、そうなるのかなと思いました。

宿は杉山由高さんがエアビーアンドビーで民宿をアレンジしてくれました。5ベッドルームの豪邸が丘の斜面に建っていて、眼下にメルボルンの湾、数十キロ先の湾の奥にはメルボルンの高層ビルがかすんで見える、素晴らしいロケ

ーションでした。食事はほとんど外食でしたが、スーパーで買い出しをして、海を見下ろすテラスでバーベキューをしたり、キッチンでオープンで簡単な料理もしました。食料品、特に肉は日本の数分の一の値段で、分厚いリブアイのステーキは塩コショウして焼いただけなのに、最高でした。

今回はオーストラリアの冬だったので、コース・コンディションが余り良くありませんでした。今度はオーストラリアの夏か、秋に行ってみたいと思いました。



豪邸のテラスでバーベキュー

右から、杉山さん、谷崎さん、増本さん